

# 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	社会構想マネジメントを 先導するグローバルリー ダー養成プログラム	申請大学名	東京大学
申請大学長名	濱田 純一		
プログラム責任者	松本 洋一郎		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムを受講している学生の理系・文系比率や日本人・留学生比率のバランスがとれており、女子学生も多いなど、多様な学生の受け入れが順調に進捗している。今後は、医学系の学生が増えることを期待したい。また、資金的な援助が必要な学生には、適切な経済的支援が行われている。</li> <li>・全体として、プログラム責任者やプログラムコーディネーター・同副コーディネーターの尽力により計画が着実に実施されている。今後も順調に進捗していけば、本プログラムを通して学生が課題設定と解決能力、組織内外の人的ルート形成能力、プレゼン能力などを取得して、産業界からも積極的に求められる人材となることが期待できる。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各コアのリテラシーの明確化を行い、どのような能力が身につくのかについての共通認識を学生に示すことが必要である。既存の開講科目の整理や読み替えに多くを依存しているが、本プログラムのための独自性のある新設科目を増やす必要があるのではないかと。このことは、文系の学生には先端科学技術コアの科目は基礎知識がないため履修が難しく、また、理系の学生にも同様の事例があるということで、複数の学生から要望が出ている。</li> <li>・GSDM イニシアティブがどのように授業と繋がっているのかが見えにくい。一部のイニシアティブを学生主導で作成することも検討してはどうか。</li> <li>・学生に「人間力」を求めているが、そのためには学生に対して「人間力」の評価基準を明確にする必要がある。</li> <li>・国際サマーキャンプや約1ヶ月にわたる俯瞰コースワーク課題解決力コア・Project Based Learning(政府課題)でグループワークを行っており、教育的効果を期待できる。今後、異分野の学生同士が日常的に議論できるよう学生が利用しやすいスペースの確保をお願いしたい。</li> <li>・複数分野の教員による指導やメンターについては、当初の目標に則した充実が望まれる。</li> <li>・国際諮問委員会だけでなく、日常的に学外や海外からの意見や助言を受ける場がある方がよい。</li> <li>・プログラムコーディネーターや同副コーディネーターをはじめとする一部のプログラム担当者のみに負担が偏りすぎないように、大学の一層の支援や特任教員の増員などの検討が望まれる。</li> </ul>			